

令和7年度 第4回 東近江市市民協働推進委員会 会議録

◆開催日時 令和8年1月19日（月）午後7時から午後9時まで

◆開催場所 東近江市役所301会議室

◆出席者

市民協働推進委員 辻 薫、小島 秋彦、水谷 友彦、藤澤 加奈子、藤 一道、
朝比奈 遥、奥田 新悟、若林 理恵、中井 昇

（事務局）

まちづくり協働課 村山、西川、松居、竹内、西堀

◆議題

(1) 「共に考え、共に創る」わがまち協働大賞について【資料1、2、3、4】

(2) 持続可能な地域運営に向けた現状と課題について（地区ヒアリング結果報告）

◆開会

(1) 「共に考え、共に創る」わがまち協働大賞について

非公表（わがまち協働大賞審査等について）

(2) 持続可能な地域運営に向けた現状と課題について

<事務局>

現在、コミュニティセンターの指定管理の更新に向けて、各コミュニティセンターに対して指定管理全般に関するヒアリングを行っている。どの地区も困りごとが増えてきているということもあり、整理を行っている。

ことの発端は、複数のまちづくり協議会からコミュニティセンター職員の給料が低く、職員募集しても応募がないことや民間と比較すると全体的に給料が安いことなどの相談があったことから、まずは地域の現状を把握するため、まちづくり協議会代表者会議、まちづくり協議会事務局長会議、各コミュニティセンターへのアンケート調査及び各コミュニティセンターヒアリングを実施している。

地域で抱えている問題は、14地区中12地区のコミュニティセンターが今後10年に向けて、事業を継続することが困難であると回答があった。これは、構造的な課題が浮き彫りになってきているほか、定年延長による人材確保の限界もある。コミュニティセンター職員の思いとしては、コミュニティセンター事業や活動にもっと取り組みたいと考えているが、日々のコミュニティセンター維持管理業務や地域団体の事務局業務に追われ、できていないのが現状である。

住民自治の意識を大切にしつつ、時間をかけてしっかりと持続可能な地域運営に向けた協議を進めていきたい考えである。

今回、地域づくりに関係している、また、まちづくり協議会として活動している委員の皆さんからも意見をいただきたい。

<委員>

中学生の中では、学生カフェFIKAのような取組をしたいという声が上がっているが、中学生だけでは進めていくことができず、困っている。地域で担い手を探されているまちづくり協議会と何か活動を行いたい中学生をマッチングできれば、何か新しいことが実現できるのではないか。

<事務局>

能登川東小学校の総合学習で、小学生でも地域の課題を洗い出し、どうすればよいかを考える授業があった。しかし、何か実施するにはトータルコーディネートできる人材がいなければ難しい。まちづくり協議会やコミュニティセンターに担ってもらいたいが、人材不足などで難しい。

<委員>

会計システムにAI機能を取り入れることにより、浮いた時間やお金で人を入れ替えるという考えなのか。

<事務局>

まちづくり協議会やコミュニティセンター職員に対して、理想とするコーディネーターなどを伝えつつ、研修などもしっかりと取り入れて、地域をコーディネートできる職員を目指してもらおう。

<委員>

旧八日市地区については、8地区に分かれているため、旧町と違いパワーバランスを考えてほしい。また、14地区全てにまちのコーディネーター役を体制整備した方が良いのではないか。まちづくり協議会という無償ボランティアの人材で、地区の中から新たな人材や新たな事業の発掘は難しい。各地区にコーディネーターが配置されている方が、地区を超えての情報共有やコラボ事業が実現するのではないか。

<事務局>

2月20日にコミュニティセンター指定管理のあり方検討会を開催し、まちづくり協議会代表者とコミュニティセンター館長が出席する中で、今後のあり方について話し合いを行う。その結果については、次回の本委員会で報告する。

事務連絡として、現在、令和8年度から令和9年度までの委員の募集を行っているため、ぜひ検討を願う。

また、2月21日（土）午前10時からわくわくこらぼ村を能登川コミュニティセンターで開催する。わがまち協働大賞表彰式もステージで行う。

次回 第5回市民協働推進委員会 令和8年3月18日（水）午後7時から
午後9時 閉会